

設楽の城砦めぐり

じょうびやい

— 津具城編 —



津具城址

津具城全景を望む

津具城は下津具の津具川左岸に位置する、麓地区の背後に聳える、山頂部に築かれた戦国の山城である。

城の南側は八〇メートルの急斜面が集落まで続き、緩斜面となって津具川に至る。

東側は寺沢の谷、西側は神明川まで急峻な斜面、北側の尾根を堀切で分断した天険の要害となっている。

頂上の本曲輪を中心に、偏心円状に曲輪が構えられ、土塁・堀切や櫓跡・虎口が残る。戦国期の山城として当時の築城構造を、多く残した貴重な遺跡といえる。

城主は、後藤氏が代々続き最後の城主善心の時、永禄十二年徳川家康に属した作手の奥平貞能と、名倉の奥平信光に攻められ落城した。激戦の中で善心は二子と夫人と共に戦死、三男安乗は乳母に抱かれ信州に逃れたと伝わる。

(愛知県文化財保護指導委員)

加藤 博俊